

「高齢者インフルエンザ予防接種」説明書

接種を受ける前によく読み、予防接種の効果や副反応、健康被害を十分にご理解ください。

令和 6 年度定期接種期間及び広域券の有効期間：令和6年 10 月 1 日～令和7年 1 月 31 日

1. インフルエンザとインフルエンザ予防接種について

インフルエンザは、「インフルエンザウイルス」に感染して起きます。38度以上の発熱、頭痛や関節・筋肉痛など全身の症状が急に現れ、高齢の方や種々の慢性疾患を持つ方は肺炎を伴うなど重症化することがあります。

発病後、多くの人は1週間程度で回復しますが、中には肺炎や脳症等の重い合併症が現れ、入院治療を必要とする方や死亡される方もいます。これをインフルエンザの「重症化」といいます。特に基礎疾患のある方や高齢の方では重症化する可能性が高いと考えられています。インフルエンザワクチンの最も大きな効果は、重症化を予防することです。

2. 高齢者インフルエンザ予防接種を受けることができない方

- ・接種当日、37.5 度以上の発熱がある方
 - ・重篤な急性疾患にかかっている方
 - ・インフルエンザワクチンの成分に対し、アナフィラキシーなど重度の過敏症状※の既往のある方
- ※アナフィラキシーや、全身性の皮膚・粘膜症状、喘鳴、呼吸困難、頻脈、血圧低下等、アナフィラキシーを疑わせる複数の症状。
- ・インフルエンザの定期接種で接種後2日以内に発熱のみられた方及び全身性発疹等のアレルギーを疑う症状を呈したことがある方

3. 高齢者インフルエンザ予防接種を受ける前に主治医と相談が必要な方

- ・心臓、腎臓、肝臓、血液疾患などの基礎疾患のある方
- ・過去にけいれんを起こしたことがある方
- ・過去に免疫不全の診断がされている方及び近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
- ・間質性肺炎、気管支喘息などの呼吸器系疾患を有する方
- ・インフルエンザワクチンの成分に対して、アレルギーを起こすおそれがある方

4. 高齢者インフルエンザ予防接種の副反応について

- ・接種部位の赤み、はれ、痛みなどが10～20%の接種者に起こりますが、通常2～3日で消失します。
- ・発熱、頭痛、寒気、だるさなどが5～10%の接種者に起こりますが、通常2～3日で消失します。
- ・稀にショックやアナフィラキシー様症状(発疹、じんましん、赤み、掻痒感、呼吸困難等)が見られることがあります。
- ・帰宅後に異常が認められた場合は、速やかに医師に連絡してください。

5. 高齢者インフルエンザ予防接種を受けた後の注意点

- ・接種後 30 分間は、ショック、アナフィラキシー様症状等の急な副反応が起こる可能性があります。なるべく安静にし、医療機関とすぐ連絡がとれるようにしておきましょう。
- ・接種当日は、激しい運動や多量の飲酒は控えてください。
- ・接種当日の入浴は差し支えありませんが、注射部位を強くこすらないようにしましょう。
- ・接種した部位の異常反応や体調の変化があった場合は、速やかに受診してください。

6. 予防接種健康被害救済制度について

極めて稀ですが、予防接種を受けた方に重い健康被害を生じる場合があります。

健康被害が臨時接種又は定期接種として行われた予防接種によるものであると厚生労働大臣が認定したときは、予防接種法に基づく救済(医療費・障害年金等の給付)が受けられます。